



「関ヶ原合戦図」を読み解く

さまざまな模様の旗指物を差して戦場を駆け回る武者。一騎打ちをする武将。討ち取った首を本陣に届ける姿。

関ヶ原合戦図屏風には、戦場でのさまざまな姿が描かれています。

関ヶ原合戦は、慶長5年（1600）9月15日、美濃関ヶ原（現在の岐阜県関ヶ原町）で徳川家康率いる東軍と石田三成らの西軍が戦鬪を繰り広げ、勝利した徳川家康が天下を統一し、のちに江戸幕府を開くことになった重要な戦いです。

関ヶ原合戦図屏風は数種類のものがあるが確認されており、そのうち彦根城博物館所蔵の屏風には、付箋により115人もの人名が記されています。中には東西両軍の大將たちもいますが、半数以上は彼らの家臣で私たちになじみの薄い人物です。例えば、右から3扇目の上部に「嶋（付箋には『嵩』と表記されています）新吉」・「藤堂玄蕃」・「山本平三郎」という人名が記された3人が描かれています

（写真）。位置関係からみて、藤堂の上に乗っているのが嶋でしよう。彼らはどういう人たちで、どういふ状況が描かれているのでしょうか。

それを理解する助けとなるのが関ヶ原合戦の様子を描いた合戦記です。多くの種類が作られており、当日の戦いだけでなく、合戦にいたる歴史的背景や関ヶ原までの両軍の動き、各地での戦い、戦後処理までを含みます。そのうち集大成といえる内容のものは「関ヶ原軍記大成」（関ヶ原記大全ともいふ）です。著者宮脇歴齋は小浜藩主酒井忠勝の家臣で、忠勝が若いときに実際に従軍して経験したことなどを基にして作った「関ヶ原始末記」を増補する意図で作ったといふものです。「関ヶ原軍記大成」の中に、嶋新吉と藤堂玄

蕃の交戦が記されています。石田三成軍が敗北する叙述の中で、家臣の諸将が血戦して討死する様子の一節にあります。

嶋新吉は石田三成家老の嶋左近の嫡男で、鍬形に似た星甲に緋威の鎧をつけて馬に乗り、味方に命令していたところ、藤堂高虎の甥である藤堂玄蕃に出会う。両者は組み合せて馬から落ちるが、新吉の力が勝っていたようで、玄蕃を押さえて首を取った。新吉が立ち上がったところを玄蕃の小姓である山本平三郎が新吉を刺してその首を取った。とあります。

屏風に描かれているのは、新吉

関ヶ原合戦図屏風（部分、彦根城博物館蔵）



が玄蕃の首を取ろうとする瞬間、さらにすぐ横に新吉を討つ山本平三郎も描いています。藤堂の小姓である山本は、別の合戦記では異なる苗字で呼ばれており、全く無名の人物です。「関ヶ原軍記大成」を読んでいないと彼がどういふ活躍をしたのかわかりません。

合戦記ごとに各人物の活躍を描く様子は少しずつ異なり、合戦図屏風に描かれる人物の中には「関ヶ原軍記大成」以外の合戦記に見られないこともあります。つまり、関ヶ原合戦図は多種の合戦記に描かれた武将たちの活躍を知ってはじめて理解できるのです。それは、とりもなおさず合戦図の読み手である当時の人々が、合戦記の内容を充分に知っていたという教養のほどを示しているのだでしょう。

（彦根城博物館学芸員 野田浩子）

「関ヶ原合戦図屏風」は、彦根城博物館常設展「古文書が語る世界」で、7月14日(日)まで展示中です。

100円お得なセット券を発売 7月1日から

7月1日(月)から、彦根城・玄宮園と彦根城博物館を1枚の券で観覧できるセット券を発売します。料金は右のとおりです。なお、セット券は個人を対象とするもので、団体は対象としません。

問い合わせ先 彦根城博物館管理課 ☎22-6100、FAX22-6520

| 種類 区分 | 彦根城・玄宮園 のみの観覧券 | 彦根城博物館 のみの観覧券 | セット券 |
|----------|-------------------|------------------|------|
| 一般 | 500円 | 500円 | 900円 |
| 小中学生 | 200円 | 250円 | 350円 |

博物館の企画展および展示替期間中はセット券を発売しません。